

21世紀 COE プログラム 公開講演会

クルアーン解釈からみる

ジハード論

● 講 師 ●

塩 尻 和 子

(筑波大学大学院人文社会科学研究科教授)

● 日 時 ●

10月22日(土) 午後1時30分～3時30分

● 場 所 ●

同志社大学 今出川校地 神学館礼拝堂

○主 催 : 同志社大学一神教学際研究センター

○お問い合わせ

同志社大学一神教学際研究センター (CISMOR)

TEL. 075-251-3972 E-mail: staff@cismor.jp HP: <http://www.cismor.jp/>

《スケジュール》

司会：小原克博（同志社大学神学研究科教授）

1：30－3：00 講演 「クルアーン解釈からみるジハード論」

講師：塩尻和子（筑波大学大学院人文社会科学研究科教授）

3：00－3：10 コメント：四戸潤弥（同志社大学神学部教授）

3：10－3：30 質疑応答

《講師略歴》

塩尻和子/しおじり かずこ

1944年4月18日生まれ。筑波大学大学院人文社会科学研究科哲学・思想専攻教授、文学博士。1992年から1994年8月までハーヴァード大学大学院中東研究所準研究員。1999年より筑波大学哲学・思想学系助教授。2005年4月より現職。

主な著作：

塩尻和子・池田美佐子『イスラームの生活を知る事典』、東京堂出版、2004年9月、304頁。

星川啓慈・山梨有希子編『グローバル時代の『宗教間対話』大正大学出版会、2004年、分担「イスラームをめぐる宗教間対話」83－120頁。

伊東俊太郎監修、吉澤五郎・染谷臣道編集『文明間の対話へ向けて』2003年、世界思想社、分担「イスラームとユダヤ教」192－208頁。

塩尻和子『イスラームの倫理、アブドゥル・ジャッバール研究』、未来社、2001年2月、338頁。

「クルアーン解釈からみるジハード論」講演概要

筑波大学大学院教授 塩尻和子

今日の国際関係上の混乱の要因のひとつには、イスラームに関する誤解と偏見があるということのを否定することは難しい。いわゆる先進国は、イスラームという宗教とその信者ムスリムについて、客観的で真摯な研究や理解をないがしろにしたまま、ムスリムの住む土地に攻撃や抑圧を加え続けている。現実には、暴力やテロの被害者は圧倒的にムスリムの側におおく出ているにもかかわらず、ほとんどの場合、ムスリムは暴力やテロや戦争の当事者の側にあるとみなされている。現在の紛争や騒乱が、共産主義にかわる二項対立の構造にかかわるものとして「イスラーム蔑視」にもとづいて意図的に作り出された「代理戦争」であるということは、いまや周知の事実となっている。しかも一部のイスラーム教徒によって、先日のインドネシア、バリ島のテロ事件のようなテロや暴力事件が頻発しており、イスラーム蔑視をますます促進する要因となっていることも事実である。

このような現実を踏まえて、さまざまな混乱や紛争の原因を短絡的にイスラームの教えに求める傾向は減ることはない。最近、わが国でも一部の学者の間で「クルアーン教えには本来的に暴力を容認するものがある。だから一般のムスリムもテロを黙認するのだ」という声高な主張がみられるようになってきた。しかも、その主張は、きわめて分かりやすいとして、わが国の政治や外交を司る行政府の中枢にまで大きな影響を及ぼしつつある。

今回の講演はこのような主張に対するひとつの反論として、クルアーンに記述されている戦闘的章句を中心に、「ジハード」に関する聖典解釈という見地から再検討するとともに、新旧訳聖書の同様の記述とも比較検討する。イスラームの理想とする教義を客観的に学ぶことによって、大多数のイスラーム教徒が求める「平和」と「対話」を理解し、改めてテロや暴力の背景を考えることが、重要ではないであろうか。テロや暴力を防ぐためには、強権や武力ではなく対話と共存が必要であると訴えたい。

今後の予定

一神教学際研究センター公開シンポジウム

「東アジアにおける

ナショナル・アイデンティティの危機と宗教の役割」

☆パネリスト

カマール・オニアー (マレーシア国際イスラーム大学)
「均衡のとれたグローバリゼーション—宗教の役割」

松本健一 (麗澤大学)
「日本のナショナル・アイデンティティとアジア的構想」

劉 義章 (香港中文大学)
「中国の近代化の回顧と展望
—新しいアイデンティティを求めて」

☆日時 2005年11月5日(土) 午前10時-午後12時

☆会場 同志社大学今出川キャンパス
寒梅館地階ハーディーホール

*京都市営地下鉄今出川駅②番出口より徒歩1分
同時通訳あり・聴講無料・事前申し込み不要

問合せ先：同志社大学一神教学際研究センター (CISMOR)

住所 京都市上京区今出川通烏丸東入

Tel. 075-251-3972 E-mail : staff@cismor.jp

HP:<http://www.cismor.jp/>

講演の資料

クルアーンの引用は宗教法人日本ムスリム協会発行『日・亜対訳聖クルアーン』により、おもな注釈書としては『ジャラーラインのクルアーン注釈』（中田香織訳、中田考監訳）によった。クルアーンの章句番号は、5：14 として5章14節を示す。

（太字にした言葉はジハードに関連する用語が用いられている箇所を指す。）

- ① あなたがた信仰する者よ、神（アッラー）を恐れ自分の義務を果たして神に近づくよう念願し、神の道のために**奮闘努力**しなさい。あなた方は恐らく成功するであろう。（5：35）
- ② 本当に信仰して移住した者たち、財産と生命を捧げて、アッラーの道のために**奮闘努力**した者たち、またかれらに避難所を提供して援助した者たち、これらの者は互いに友である。（8：72）
- ③ 預言者よ、不信者と背教者に対し**奮闘努力**し、彼らに厳しく対処せよ。かれらの住まいは地獄である。何と悪い帰り所であることよ。（9：73）
- ④ アッラーの道のために限りを尽くして**奮闘努力**しなさい。神はあなたがたを選ばれる。この教えは、あなたがたに苦業を押し付けない。これはあなたがたの祖先、イブラーヒームの教義である。（22：78）
- ⑤ 神聖な月が過ぎたら、多神教徒を見つけ次第に殺しなさい。また、彼らを捕虜にして閉じ込め、あらゆる策力をもって彼らを待ち伏せしなさい。しかし、もし、彼らが悔い改め、礼拝を守り、喜捨を差し出すなら、彼らの道を開いてやりなさい。実に神は寛容で慈悲深いお方である。（9章5節）
- ⑥ あなた方が不信仰者と（戦場で）出あった時は、（彼らの）首を打ちなさい。彼らを皆殺しにするまで。そして（捕虜の）縄をきつく締め、その後に情けをかけるか、戦いが終わるときまでに身代金を（取りなさい）。（47章4節）
- ⑦ 宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている。それで邪神を退けてアッラーを信仰する者は、決して壊れることのない、堅固な取っ手を握った者である。（2：256）
- ⑧ その七度目に祭司たちが角笛を吹いたとき、ヨシュアは民に言った。「ときのをあげなさい。主がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。この町と町の中のすべてのものを、主のために聖絶しなさい。

・・・(中略) 彼らは町にあるものは、男も女も、若い者も年寄りも、また牛、羊、ろばも、すべて剣の刃で聖絶した。(ヨシュア記6・16～21)

⑨ カインは主に言った、「私の罰は重くて負いきれません。あなたはきょう、わたしを地のおもてから追放されました。・・・私を見付ける人はだれでもわたしを殺すでしょう。」主は彼に(カインに)仰せられた。「いや、そうではない。誰でもカインを殺すものは7倍の復讐を受ける」(創世記4・15)

⑩ わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っはなりません。わたしは平和をもたらすために来たのではなく、剣(つるぎ)をもたらすために来たのです。(マタイ10・34)

⑪ しかし、聖書は何と言っていますか。「奴隷の女とその子供を追い出せ。奴隷の女の子供は決して自由の女の子供とともに相続人になってはならない。」こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子供ではなく、自由の女の子供です。(ガラテア書4・30)

⑫ だが、あなたがたと盟約した民に仲間入りした者、またはあなたがたとも自分の人々とも戦わないと、心に決めて、あなたのところに来てくる者は別である。もしアッラーの御心ならば、かれ(神)はあなたがたよりもかれらを優勢になされ、あなたがたと戦うであろう。それで、もしかれらが身を引いて、あなたがたと戦わないで和平(salam)を申し出るならば、アッラーはかれらに対して戦う道をあなたがたに与えられない。(4:90)

⑬ あなたがたに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であつてはならない。本当にアッラーは侵略者を愛さない。(2:190)

⑭ 人びとよ、われ(神)は一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたのうち最も主を畏れる者である。(49:13)

⑮ そのことのためにわれは(神)はイスラエルの子孫に対し、掟を定めた。人を殺した者、地上で悪を働いたという理由もなく人を殺す者は、全人類を殺したのと同じである。人の生命を救う者は、全人類の生命を救ったのと同じである(と定めた)。そしてわが使徒たちは、かれらに明証を齎した。だが、なおかれらの多くは、その後も地上において、非道な行いをしている。(5:32)